

静私ふかだより



- 夏の研修報告
- おやこんぼ推進プロジェクト通信
- 教員養成校訪問
- 子育てフェア
- ヤマハ発動機ジュビロ五郎丸歩選手直撃インタビュー
- 特集/親と子の心を育てる幼児教育(その6)肥後功一
- コミュニティ(保育の窓)
- もの想い(万野幼稚園・すすき幼稚園)
- 健康随想/栗山 恵



NO.175
2015⑫
Winter

夏の研修報告



教育研究講座（8年目）

平成27年8月5日（水）、極暑の中、グランシップホール「風」に於いて勤続8年以上の教職員約210名が出席し、教育研究講座が開催された。

免許更新としての受講にもなっており、午前中の講義Ⅰでは「幼児期の教育について」と題し、講師として相模女子大学教授堤ちはる先生をお招きした。午後からの講義Ⅱでは「幼児から児童期への学びと育ち」と育ちについて（「記録と発信の重要性」と題し、講師として鳴門教育大学教授木下光二先生のお話を熱心にお聞きした。



教育に関わる人が「食」への興味・関心をもち、それを子どもの前で表現する。それが子どもの「食」への関心を引き出すことにつながる。大人は子どもの手本となるのが大切で、これが心身ともに健康な生活を展開する「食育」の原点になると考えると結ばれた。

講義Ⅱ「幼児から児童期への学びと育ちについて（記録と発信の重要性）」

まず、木下光二先生はご自身の職歴について紹介された。47歳にして幼稚園勤務をするようになった小学校教頭。園児たちは登園するなり思い思いの場所へと消えていく。時間割もなければチャイムもない。小学校と幼稚園は、それほどかけ離れた教育の場だったことに驚きや戸惑いを感じ、子どもたちの触れ合い、遊びや学びを育てていくことを、沢山の楽しいエピソードを交え、尚且つ、受講者にワークシートを用意し、九つの設問への回答を受けながら保幼少の連携教育について講義された。

講義Ⅰ「幼児期の食育について」

冒頭に、堤ちはる先生は沼津の私立幼稚園を卒園し、静岡とは思えないことをお話しされ身近に感じることが出来た。そして、次のような資料に沿って講義が進められた。

●幼児の食生活について●幼児の食育でめざすもの●さまざまな「こ食」について●食べ物の好き嫌いについて●食事の提供を通して育まれるもの●最後にまとめとして、子どもの身近にいる保護者や子どもの



職業のある受講者たちの回答の仕方の速さ豊かさ素晴らしいさは、記録と発信の重要性の副題に繋がるものであった。そして、幼児期にしかで



初任者（宿泊）研修

きない遊びを十分に楽しみながら遊び込める子どもに育っているかどうかが大変。砂場、虫や花、絵本や物語、数量や図形に興味を示し、買い物ごっこや折り紙、積み木などで時間を忘れて遊べる幼児は小学校の学習にも滑らかに移行できるでしょうとまとめられた。

夏休みの終盤これからはじまる2学期の保育に向けて、8月24日・25日の2日間、掛川市のヤマハリゾート「つま恋」にて静岡県私立幼稚園初任者宿泊研修会が【素晴らしい保育者を目指して】という研修テーマのもと開催されました。

開講式では主催者あいさつ、趣旨説明がおこなわれ、さっそく1日目の講義が始まりました。講義1では【2学期に向けて】というテーマで高崎健康福祉大学教授の高梨圭子先生よりお話をいただきました。1学期の自分の保育を振り返り、その後「子どもの理解を進める」「保育を創る」「記録を残す」「振り返る時間を大切に」「組織の中の自分・チームで進める保育」「保護者の

と一緒に歩む」という小題をもとにこれからの2学期に向け、またこれからの長い保育人生に向けお話しいただきました。

その後、昼食を済ませ午後は演習1ということで【おさえておきたい基本のマナ】をNHK学園の山岸弘子先生にご講話いただきました。初対面での印象をよくするためにはどうしたよいか、笑顔の効用や話し方のコツ、聞き方のコツなどをお話しいただき、礼儀作法についても教えていただきました。

講義2では【いのち育む】の活用についてというテーマで研修副委員長の大貫なみ先生にお話をいただきました。子どもの関わり、保育にとって大切なことを具体的に解説していただきました。

演習2では【あそびから創造へ】というテーマで東京家政大学教授の花輪充先生から表現あそびについてお話をいただきました。表現する「オモテに



アラワス」ことは、様々な経験や出逢いによって生じる感動体験の中で自分の感覚や感情を伝えたい、あらわしたいと欲し、あらわれたものです。子ども達の表現を受け止めるには保育者にスキルと多様性が求められます。そんな表現活動を実践しながら楽しく「表現」について学びました。演習2では絵本の読み聞かせをグループごと



行ない、お互いに読み聞かせをしなが
ら絵本を読むときのポイントや注意点
を演習しました。

夕食後、グループに分かれ**演習3**【**自己紹介・実技交換会**】を行ない1日目
の研修を終えました。

2日目午前は**実技2**【**幼児に起こる
身近なげがと対処法**】を日本赤十字社
静岡県支部の方々を講師に各グループ
に分かれ実践演習を行ないました。日
常起こりやすい事故の事例やその対処
法を学び、ストックキングを使い包帯の
応用方法なども演習しました。

午後は**実技2**【**つくるって楽しい
ね！〈保育者として知っておきたい基
本と応用〉**】を四天王寺大学准教授の
村田夕紀先生による実技演習という形
で楽しく紙製作の基本から応用までを
学びました。

最後に閉講式を行ない、たくさん
の講義、演習、実技から多くの学びを得
て2日間の宿泊研修を終えました。

特別支援教育研修

平成27年8月3日静岡市のグラン
シップにおいて、特別支援教育研修が
行われました。(昨年度までの心身障
がい児教育研修会から研修名を変更
当日は24名の教員が参加しました。

午前の部では【**特別支援の具体的な
手立てをみつけるヒント**】というテー
マで臨床心理士の伊藤千裕先生にご講
義いただきました。先生は子育て支援
カウンセラーとして各園を訪問し、年
間100件以上の相談に応じておられま
す。

はじめに**〈ステップ1：認める〉**と
は①子どもの存在そのものを認め肯定
することにより、子ども自身が自己肯
定感・自己効力感を得る②子どもに

とって、保育者が
重要な特別な存在
となる③愛着と信
頼に満ちた人間関
係を築くことによ
り、新たな挑戦や
試練に耐えること
が可能になる、以
上の3点をポイン
トに挙げ、次に**〈ス
テップ2：導く〉**
については「より
適切な行動やそれ
につながる見通し
を、話し言葉や絵
や見本などの視覚
的情報によって提
示する」というポ
イントを挙げて、
ヒントを示しなが
ら丁寧に分かりや
すく教えていただ
きました。参加者には普段の保育を振
り返り、まず『認める』ステップと『導
く』ステップのうま
くのうまくなかつ
た例(青色)は①子
どもの特徴②試し
たい手立て③予想
される結果



色)は①子どもの特徴②手立て③結果、
これから試したい例(黄色)は①子ど
もの特徴②試したい手立て③予想され



る結果を書き出すよう指示されまし
た。

午後の部では、臨床心理士の今木久
子先生と山本奈苗先生が加わり助言し
ていただきました。参加者は8人ずつ
のグループになり、書き出した3つの
例について話し
合い、模造紙へ
色別に付箋を
貼ってまとめて
いきました。多
くのグループが
活発に意見を交
わしていました。
実例を基に討議
しているのが大
変参考になった
ようです。

今回の研修で
特別支援が必要
な子どもだけで
なく、一人ひと
りの子どもと関
わる上で重要な
ヒントを沢山教
えていただきました。
そして、
私たち保育者を応援する沢山の言葉を
いただきました。3人の先生を盛大な
拍手でお送りして研修会が終了しまし
た。



おめでとうございます

平成27年秋の叙勲の受章者を
ご紹介いたします。

●瑞宝章 今泉邦弘

学校法人 今泉学園理事長
いまいづみ幼稚園園長



おやこんぼ



親子の触れ合いの大切さをつたえよう！
 おやこんぼキャラクターが描く素敵な「お
 やこんぼストーリー」をご紹介します。
 毎月15日前後の静岡新聞朝刊テレビ欄に
 広告を掲載しております。
 ぜひみなさんも新聞を見て「おやこんぼキャ
 ラクター」をみつけてください。

おやこんぼ推進 プロジェクト 通信



【25年12月】



きょうは、だいすきなおなべでした。
 おおきなおなべで
 パパとママといっしょにたべられたのが
 たのしいです。
 たのしいといえば、
 あとすこしでクリスマスにお正月ですね！

【26年12月】



もうすぐクリスマスだね。
 サンタさん、うちにもきてくれるかな～。
 ツリーのじゅんびはできたけど、
 おとうさんはどこにいったのかな～。

【26年1月】



おや？テレビちゃんテレビガードくんが
 カルタやトランプをもったのしろう！
 あたらしい遊びをおしえてくれるのかな？

【27年1月】



きょうはみんなでおでかけします。
 ママのじゅんびをまっているあいたに
 パパとぜんざいをたべていたら
 ママのようができました。

【26年2月】

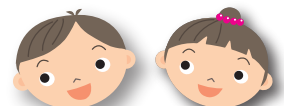


きょうはやぎんぼにーさんと
 のりんぼせんせいと
 マラソンをしました。
 マラソンはとくいなので
 いっしょうけんめいはりました。
 おやこんぼむらはゆきがとけだし
 はるがちかづいていました。

【27年2月】



さるんぼおやこのお食事風景です。
 きょうはどようび
 おとうさんといっしょに、
 かそくあつまってゆうごはん。
 きょうもたのしかったね！



●おやこんぼ活動についての保護者に向けての説明会など（子育てのポイントなどを含め）おやこんぼプロジェクト
 リーダーのこずわ幼稚園園長 後藤信俊が出席します、ご希望の園は協会にお申し込みください

教員養成校訪問

浜松大学／常葉大学浜松キャンパス

平成27年10月8日(木)浜松市北区都田町にある浜松大学／常葉大学浜松キャンパスを広報委員が訪問しました。最初に海野展由こども健康学科長より、現4年生が浜松大学最後の学生で、3年生からは常葉大学浜松キャンパスとなる名称変更の経緯や一部カリキュラム等も変更になった理由の説明を受けました。4年生3名と3年生4名が話し合いに参加してくれました。自己紹介と同大学に入学した理由や通学方法を伺いました。理由は「自然いっぱい環境」を挙げた学生さんがほとんどでした。同大学は市街地から15分ほど離れた山間にあり、学内に農園や自然体験学習園を所有する自然がいっぱい体験できる環境にあります。市内の子ども達を集めて、人形劇やさまざまな体験やゲーム等を行う「こどもむら」は地域からも大好評だということです。「企画・運営が大変だけ

ど、子ども達的笑容を見ると嬉しくなる」と学生さんから感想です。

4年生は、3人とも幼稚園に内定しているとのことでした。

「なぜその園を選んだのか？」に対しては「実習

での園の雰囲気」や「園長や職員の対応」を挙げました。ここで同行した同大学出身で、現在無憂樹（あそか）学園に勤務する五十嵐先生より「学生時代に行なっていた方が良いこと」として「ピアノの練習や手遊びも大切だが、幼稚園は人と接する仕事です。園児だけでなく、保護者と毎日顔を合わせます。また電話での対応や挨拶の仕方など、接客業のアルバイトを経験したことが自分の場合役立ちました」というアドバイスに加え「幼稚園教諭は、やりがいのある職業です。子どもの日々の成長は感動



の連続です。ただ自分の心が落ち着いていないと、子どもも落ち着かないというように、子ども達は自分の鏡のような存在です」の話には、一同大きく頷いていました。3年生に、幼稚園と保育園の印象を聞くと「幼稚園は短時間でメリハリがあり、保育園は長時間でゆったりしている」「幼稚園はピアノが出来ないといけない」が多数でした。

各園長より「保護者が子どもの将来を考え、選択している」「協力



的な保護者が多い」「子どもの心が安定している」など、私立幼稚園の良さを説明しました。また「ピアノも含め、園方針がそれぞれの園で違いがある」「今後、こども園が増え、園の運営方法が変化する場合があるが、基本理念に変化はない」なども付け加えました。

鈴木治副学長先生にも加わっていただき、記念写真を撮影して同大学を後にしました。お忙しい中を丁寧に対応して下さった同

大学の皆様と、元気いっぱいにお話しをしてお話した学生さんに感謝します。ありがとうございました。





『親子ふれあい子育てフェスティバル』

10月17日(土) 浜松市私立幼稚園協会主催による「第15回親子ふれあい子育てフェスティバル」がアクトシティ浜松展示イベントホールで開催されました。開会式では、多くの来賓の方々と共に「ゆるキャラグランプリ2015」の「出世大名家康くん」が登場して開会を盛り上げてくれました。(家康くんは日本一に輝きました。)

今年度は、在園児とその保護者で7千名の参加があり、未就園児とその保護者にも多く参加いただけるようにチラシや新聞等でも紹介していただき、全体で2万人の参加を見込んで準備をしました。展示イベントホール全体を使って「子育て相談コーナー」や「みんなであそぼう」「みんなで作ろう」「みんなでゲーム遊び」「みんなでおはなし聞こう」と26ヶ園がそれぞれにあそびコーナーを開き、親子が触れ合いながら共に楽しんで過ごす中で、私立幼稚園の教育力をアピールできるように考えました。

ブースの内容はハロウィンが近いという事もあり、お面や顔にペインティ

子育て フェア in 浜松

ング、風船を使ったおぼけのヨーヨー、秋を感じさせるどんぐりやまつぼっくりを使ったパフェの制作などがありました。また、運動あそびを取り入れたものでは、ソフトドッジボールを使ったボーリングや空き缶の積み上げ競争、手作りのワニワニパニックゲームで楽しむ姿がありました。パネルシアターや人形劇のコーナーも親子でお話しに聞き入っている姿がありました。来場されたみなさんは、十分に秋の休日親子で楽しむことが出来る一日になったと思います。

ブースに参加していない26ヶ園の先生方も、スムーズにフェスティバルが運営できるように案内や誘導などを担当し、浜松市にある私立幼稚園52ヶ園みんなで協力して私立幼稚園の存在を大いにアピールすることが出来ました。





幼稚園名及び参加内容

幼稚園名	参加内容
幼稚園A	水遊び、おたばこ、お絵かき、おままごと
幼稚園B	おたばこ、お絵かき、おままごと
幼稚園C	おたばこ、お絵かき、おままごと
幼稚園D	おたばこ、お絵かき、おままごと
幼稚園E	おたばこ、お絵かき、おままごと
幼稚園F	おたばこ、お絵かき、おままごと
幼稚園G	おたばこ、お絵かき、おままごと
幼稚園H	おたばこ、お絵かき、おままごと
幼稚園I	おたばこ、お絵かき、おままごと
幼稚園J	おたばこ、お絵かき、おままごと



平成27年度「第19回私立幼稚園子育てフェア」IN SHIZUOKAが11月17日(火)午前10時より静岡市駿府城公園にて行われました。子育てフェアは、子どもと親と先生が一つの会場に集まり、遊びや体験と一緒に楽しみ、子育ての喜びを感じて頂くために、静岡地区の私立幼稚園35ヶ園の教師達が協力して企画しました。

各園がそれぞれコーナーを設置し、製作、手遊び、踊り、ペイント、大型紙芝居、パネルシアター、迷路など親子で楽しみました。その他には起震車、消防士になつてはしご車に乗ろう、パトロールカー、白バイ乗車体験などを設けました。会場には写真入り一覧表の「案内版」の設置や、本部には「子育てなんでも相談コーナー」もありました。

在園児と未就園児を合わせ一万八千名ほどの来場者を迎え、各ブースに子ども達の笑顔、親子の笑い声、先生達の元気な声が溢れ親子で楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

子育てフェア in SHIZUOKA



ヤマハ発動機ジュビロ 五郎丸歩選手 直撃インタビュー!!



10月29日(木)W杯(ワールドカップ)後、ラグビー界のスーパースターとなったヤマハ発動機ジュビロの五郎丸歩選手に私立幼稚園児保護者として広報委員7名が直撃インタビューをしました。この日は、初めに1時間ほど練習風景を観戦し、その後、控室でお話を伺いました。

静岡県私立幼稚園振興協会でも、ぜひ応援したいという気持ちをこめて報告いたします。

■W杯を終えての率直な感想を教えてください。

●4年前から「2019年の日本W杯を盛り上げるために、世界の舞台で我々が結果を出さないといけない」と思ってきました。代表に選ばれた全ての選手たちが私生活も家族もすべてを犠牲にして、本当に日本のラグビーのためだけに身体を張り続けてきた結果、こうやって日本の中でラグビーというスポーツが、皆さんに認知していただくことになったのでほんとにうれしく思っています。

■帰国後の五郎丸フィーバーについてどう感じていらっしゃいますか。

●まあ、嬉しいですけどもラグビーは1人で結果を出すスポーツではないので、私だけテレビに出ることに対して、戸惑いはありますね。

■練習2日目の今日は350人もの観客が来て、W杯前とは全然違いますよね。ラグビー人気が沸騰していることに関して、牽引役をやっているという感覚はありますか？
●もちろんあります。

■子ども時代、幼稚園などでは、どんなお子さんでしたか？

●むちゃくちゃやんちゃでしたね。キリスト教の幼稚園でした。悪いことをした子はお祈りの部屋に入れられました。わたしはずーっとお祈りの部屋にいましたね。(笑)

■子ども時代で特に印象に残っている事を教えてください。

●3歳からラグビーを始めましたが、ラグビーの格好をして、ボールで遊ぶ感じですね。僕はあまり面白くなくて、隣の空き地でバットを追いかけていましたね。(笑)

■五郎丸さんのラグビーを始めたきっかけは何ですか？

●親がラグビーを好きだったからです。二人の兄と同時に入りました。

■お子さんを私立幼稚園に入園させた理由を聞かせてください。

●小さい時に生きる力を身につけてほしいだったので、あまり勉強とかそういうのはなくて、強い基礎的なところを育ててほしいと思い選びました。

■我が子とのかかわりの中で意識されているようなことありますか？

●やはり接する機会が少ないので、一緒にいる時はできるだけ外に出て公園なり海なり行って遊びますね。

■お休みのときのくらいありますか？

●週1回あれば良い方ですけど「一日丸々休み」っていうのはないです。今年は半年間まったく休みがなかったです。

■子どもの幼稚園行事で印象に残るものがあつたら教えて下さい。

●やはり運動会ですかね。参加した事を長男がとっても喜んでくれたので、一緒にいて良かったなと思いました。

■休日の親子で過ごした中で印象に残っていることは何ですか？

●デイズニールランドに行ったことですかね。僕は、絶叫マシンがあまり好きではないのでファストパスを取りに行く係と次男世話係で、妻と長男がたくさん乗っていました。ゴーカートは長男と一緒に乗ると長



男がとても興奮しました。

■遠征などで、家を留守にする事が多いと思いますが、家族とどんなコミュニケーションをとっていますか？

●今は、スカイプとかテレビ電話ができるので、携帯で会話しています。長男は私が電話すると離さないですね。(笑)ずっと話しています。

■子どもには、どんなふうに育てて欲しいですか？

●僕はずっとラグビーで生きて来たので、彼が「ラグビーをしたい」と言えばもちろんうれいすけれど、「他の道を進みたい」と言えば、僕はまた違う世界を見ることのできるの、それはそれで楽しみですね。常に彼に選択肢を与えたいと思っています。

■父親になられてから、人生においてどんな所が変わったと思えますか？

●僕が結構衝撃だったのが、ラグビーをしている姿を見て息子はあまりすごいって言わないのですけれど、縄跳びで二重飛びした時に「パパすごい!!」って驚いていました。(笑)子どもってこんな身近なことを「すごい」って思うのだなと感じました。

■試合において現在のメンタル面での支えってなんですか？

●メンタルという言葉はあまり好きではありません。見えないものなので、見えるものと一緒に戦うというのが一番の原点ですね。チームメイトだったり家族だったりですね。

■子どもの入園式のために代表合宿に入るのを1日遅らせたと言いたのですが。

●その日はたまたま合宿の初日だったので、チームの許可を得て、入園式に参加させてもらいました。その他の行事は全く行くことができませんでした。行ける時はできる限り参加してあげたいですね。

■キックを蹴るときに、角度が結構あつて、「これは無理だな」と思うことはありますか？

●ないですね(笑)。蹴る前は、入るとか入らないとかは考えません。また、周りに300人いようがそれが1千人・2千人に増えようが、1万人になろうが、あまり関係ありません。自分がやらなくてはならない事に集中するだけです。

■「五郎丸ポーズ」が流行っていることについてはどう思います？

●まあ、それをきっかけにラグビーというスポーツを知っていただければとてもうれしい事なので…。

■大学時代はもっとスリムな体型だったと思いますか？

●体重自体はあまり変わっていません。

■毎日の食事を奥さんが写真に撮って、トレーナーに見せているという話を伺ったのですが？

●妻はアスリートフードマイスターという資格を取ったのですが、それをきっかけに僕に対してだけではなく子どもに対しても考えながら食材を出してくれますし、感謝しています。休みの日など一日3食作るだけで終わるくらい精いっぱいやってくれ

ています。子どもの食事も含めてバランスよく用意してくれます。

ありがとうございます。

長男を私立幼稚園に通わせている五郎丸選手。試合中の雰囲気からは想像できないユーモアと優しさ、そして芯の強さを感じることができました。W杯のベスト15にも選出され、スーパースター級のレッズ(オーストラリア)への入団も決定。レッズでのそしてヤマハでの素晴らしい活躍を心に残りました。この後、みんなで記念写真を撮ったのは言うまでもありません。



★静私幼だより読者3名に五郎丸選手のサインをプレゼントします。希望者は①幼稚園名②氏名③五郎丸選手サイン希望と書いて054・255・3694(幼稚園振興協会)までFaxして下さい。応募期限は1月15日(金)。

親と子の心を育てる幼児教育

6

幼児教育の大切さに もつと光を

①遊びを中心とする幼児期の生活が「知育」であるために

今後の社会で求められる学力、その基盤となる真の言語力を育てるためには、リアルな体験をしつかりと幼児期にしておくことが必要だ、というのが前回のお話の主旨でした。子どもが自分の感性のアンテナをいっばいに働かせ、自分の身体で何かを掴み取り、それをぜひ誰かに伝えなきやと思ひ、その思いが自分なりのことばとなつて花開く：そんな姿を日々の暮らしの中で豊かに育てていくために、私たちは何ができるでしょうか。幼児教育に対する一定の「知育」志向が高まりつつあるように思われる今日、幼児教育が実は何を育てているのかということにつ

いて、その重要性がきちんと伝わる形で、広く社会に発信していく必要があると思います。

たとえば「子どもが見つけた遊びを心ゆくまで楽しむ」といった目標を立てた、いわゆる自由保育の展開を見せていただくことがよくあります。それがただの放任と異なるのは当たり前ですが、しかしこうした「自由な遊びを生活の中心においた保育・幼児教育」には、その質の良し悪し、上手下手が如実に現れます。前にも書いたように（第2回）、明確な教育目標を決めて大人がプログラムを設計し、その上で子どもを楽しく活動させるタイプの保育よりも「自由保育」は遥かに難しく、一人ひとりの保育者の力量（経験、思考力、判断力、保育技術など）が、子ども達の日々の育ちに大きな影響を及ぼしま



島根大学教育学部教授

肥後 功一

リハビリテーション病院や国立特殊教育総合研究所に勤務の後、島根大学教育学部講師、助教授、心理・発達臨床講座教授、理事・副学長を経て現職

専門分野 / 教育臨床心理学・発達臨床心理学
研究テーマ / 教育（保育）におけるコミュニケーションとその障害、心理臨床相談・教育相談・発達相談の理論と方法、家庭における子どもの育ちと“ことば”の問題

大学・大学院での主な担当授業科目 / 教育臨床心理学概説、障がい児者臨床心理学特論、臨床心理査定演習など

所属学会 / 日本心理臨床学会・日本特殊教育学会

す。「子どもが見つけた遊びを心ゆくまで楽しむ」ことを生活の中心に置くことが、なぜこの時代の「知育」の核としてあるべきなのか、そのことを子ども達の成長の様子を通じて、保護者の方々と地域社会のみなさん、あるいは学校関係者にきちんと示し伝えていただきたいと思っています。

②遊びの神様が降りてくる

子どもの遊びに重要な意味があるのは、子どもとその遊びとの間にエネルギーの交流があるからです。子どもは自分にエネルギーを与えてくれそうなものに近づき、それとかわり（エ

ネルギーを注ぎ、その結果返ってくるものを受け止めます(エネルギーをもらう)。そのやりとり、交流がその子の育ちに真に必要なものであるとき、子どもはそのことに「没頭」しはじめ、「じつくりと、何度も繰り返し」という姿が出てきます。遊びがおもしろい、遊びを楽しむ…というより、遊びと自分とがひとつになってエネルギーが静かに増幅していく姿をそこに見ることが出来ます。それがおそらく「見つけた遊びとひとつになって、心が満たされていく」ということでしょう。そういう瞬間のことを、私は「遊びの神様が降りてくる」と言っています。計画された保育指導案の真ん中ではなく、その周辺や何でもない日常のふとした瞬間に、それは訪れます。そんな偶然をうまくつかんで子ども達と共に味わうことができれば、これほど素敵なことはないでしょう。

遊びの意味と質を問い直しながら、子ども達の心が出会いたがっているものを想像しながら、環境や活動をそれでも「計画的に」構成していくこと、そうしながらも一方で逆に「無計画・無方向に」その時その場に展開される遊びを、柔軟に心から楽しもうとすること、そんな中に遊びの神様はふと降りてくるような気がします。幼児期にこうした「遊びの神様」に出会う経験はとても重要です。なぜならその神様こそが、それ



以降の「遊びの神様」でもあるからです。



3 おわりに やり残しの自分を育てる

6 回にわたるお話もそろそろおしまいです。保護者さんへの支援についてあまり書けなかったのが心残りですので、私が保護者さんによく申し上げるお話を少し最後に書いておきたいと思います。

忙しい子育ての日々は、いつも幸せな時間とは限りません。子どもの困った行動や聞き分けのない姿に、我が子ながら

どうして!と腹の立つことも多いでしょう。しかしどうかそれは「やり残した自分の姿」であると思っていだきたいのです。私たちはみんな、子ども時代の「やり残しの自分」を抱えて大人になります。もつとやりたかったいたずらや危ないことや大人の困ることを、私たちは「聞き分けよく止めて」大人になりました。いまあなたの子どもは、その続きをやっているだけです。私たちは我が子の姿を通じて、そのやり残した自分と再会し、もう一度、自分のやり直し、育て直しができる…子育ての日々とはそういう毎日ではないでしょうか。

私たちおとなが、子育てという形で子どもと共に生きられるのは、長い人生の中の、ほんの限られた時間にすぎません。その「重なり合いの充実こそが、子どもの発達の可能性を、つまり未来を、次の時代を、命の繋がりを、根底から支えているものです。その大切な時間を、子どもを真ん中に、保護者のみなさんと幼稚園教育が手を携えて進んでいくことを祈りつつ、この連載を終えたいと思います。長らくお読み下さりありがとうございました。





幼稚園教諭になって

学校法人高洲学園
高洲南幼稚園

村松 奈々

私が幼稚園教諭になってから、早くも5カ月が経ちました。思えば、夢だった先生になり、担任として年少児クラスを持たせていただき、期待に胸を膨らませて新学期を迎えました。

「先生になったら歌をたくさん歌って、音楽が絶えない明るく元気な保育をしていきたいな」と思っていました。そして、子ども達が入園してきた4月当初、自分のクラスの子ども達と対面した時に



「いよいよ先生としての日々が始まるんだ」と思い、気を引き締めて保育に臨みました。朝の会での歌の時間にいろいろな歌を歌ってみようと考えていましたが、いざ歌うとなると「新しい歌をどう子ども達に教えていけばいいのだろう」と思うことが多く、弾き歌いも難しくてなかなか試してみることができませんでした。それだけでなく、歌う時になると席を出歩いてしまう子がいったり、机に寄りかかっている子がいったりして、どう対応していいのかわからず焦るばかりでした。

自分の中で解決しようとして失敗を繰り返しながらも、その度に先輩方に熱心にご指導していただき、保育の仕方や子どもの対応の仕方が少しずつ分かるようになってきました。時には、先輩の保育を真似して

みようとしましたが、子どものあり方や実態が違うため思い通りにいかないことが多く、声かけもうまくできませんでした。同じようにはいかないことを学び、真似をしながらも子どもが納得できる様に、できる限り具体的にその子に合った声かけをしていこうと思いました。「気をつけピッ!の姿勢だよ」「自分の席で歌うとかっこいいよ」と声かけを繰り返すうちに、最近では歌の時間に出歩いてしまう子や机に寄りかかってしまう子が増え、初めの頃はあまり歌おうとしなかった子が大きな口を開けて元気よく歌う姿が見られるようになりました。その姿を見た時は驚きと喜びでいっぱいになり「頑張ってきたよ」「これから頑張ろう」という気持ちになりました。

子どもの成長を間近で見ることができ、日々発見の毎日が今ではとても楽しくやりがいを感じています。子ども達に寄り添いながら一緒に楽しむ事を忘れずに、歌のレパートリーも増やして子ども達の元気な歌声が園に響き渡るように毎日頑張っていきたいと思っています。

幼稚園教諭になって

学校法人足立学園
リーチエル幼稚園

佐野 史奈

幼稚園教諭になることは私の小さい頃からの憧れでした。それは、私が幼稚園児だった時の先生が大好きだったこと。人見知りだった私が当時唯一心を開けたのが幼稚園の先生だったからです。そのため、私も子ども達が心を開きやすい先生になりたいと思ったからです。

そんな私は今年から幼稚園教諭となり、リーチエル幼稚園で年少の担任をしています。担任をもつことで喜びの反面不安もたくさんありました。子ども達の成長を間近で見られる先生はとても素敵な職業ですが、命を預かるという事で責任をとる先生としてとてもドキドキしていました。泣く子が多かった4月当初、そんな中、子ども達が早く幼稚園に慣れてくれるにはどうしたらいいのかなという事が、私にとって最初の課題でした。毎朝笑顔で迎え、幼稚園には楽しい遊びがあること、お友達がたくさんいることを伝えていきました。段々とみんな笑顔で登園し「今日は泣かなかったよ」と自信満々の嬉しい顔で教えて



くれるようになりました。現在2学期を迎え、先生の側から離れなかった子はお友達と遊び、一人遊びをしていた子は「一緒に遊ぼう!」とお友達を誘って遊び、服の着脱までが出来ていた子は服を綺麗に畳めるようになり、お手伝いや片づけも積極的に一生懸命取り組んでくれるようになりました。子ども達は日々成長を見せてくれます。子ども達にとって友達や先生の声掛けの仕方がいかに大切なのかを感じることができました。

初めて、子ども達と会った入園式、どの子も不安な顔を浮かべていました。私はこれから始まる集団生活をサポートする先生としてとてもドキドキしていました。泣く子が多かった4月当初、そんな中、子ども達が早く幼稚園に慣れてくれるにはどうしたらいいのかなという事が、私にとって最初の課題でした。毎朝笑顔で迎え、幼稚園には楽しい遊びがあること、お友達がたくさんいることを伝えていきました。段々とみんな笑顔で登園し「今日は泣かなかったよ」と自信満々の嬉しい顔で教えて

私自身まだまだ先生として学ぶことがたくさんあります。上手に保育が出来なかった時、いつも励まし教えてくれるのは先輩先生です。声掛けの工夫や、失敗した時に次はどのようにしていけばいいのか反省し、考えアドバイスをもらうことで私自身も先生として日々成長しているのだと感じます。まだまだ未熟で子ども達にとっては良い先生ではないかもしれませんが、日々の保育を反省し改善していきます。これからもたくさん吸収して良い先生を目指して頑張っていきたいと思っています。



保育の窓 コミュニティ

幼稚園教諭4年目の今、思うこと

学校法人浅沼学園
愛鷹幼稚園

長島 彩

幼稚園年長の頃、担任の先生が大好きで「幼稚園の先生になりたい」という思いを持ち、大学卒業後、幼稚園教諭になった時は、本当に嬉しくて涙を流して喜んだのを覚えています。

働き始めてしばらくすると、私は幼稚園教諭という仕事を甘く見ていたことに気が付きました。実習の時のように子どもと関わったり掃除をするほかに、保護者との関わり、クラス運営や園行事の企画、書類の記入、そして何より子ども達の命を守るという重い責任があるというなど社会人として働く大変さを実感しました。

あれから3年半が経ち、幼稚園教諭4年目となった今、過去には仕事について悩んだこともありましたが、かわいい子ども達に支えられ、保護者の方々から励ましの言葉を頂き毎日楽しく働くことができています。

そんな中で私はいつも感じていることがあります。それは「心が健康でなければ、楽しんで仕事ができない」ということです。私は、自分の心が健康であることを自負しています。

その理由の1つは、職場環境の良



さです。「幼稚園は女性の職場だから…」という話を何度となく耳にしたことがあります。私の働いている愛鷹幼稚園はとても明るく温かさに溢れている職場だと感じています。先輩の先生に相談すると親身になつて話を聞いてくれ、協力し合つて仕事をするという体制が整っています。当たり前のようで、当たり前でないこの環境。この環境があるからこそ、心が健康でいられるのだと考えています。

2つ目の理由は、私には趣味があります。週末は、少しだけ仕事から離れ、大好きなバスケットボールに打ち込み、気分転換をすることで、また月曜日から頑張ろうという前向きな気持ちになることができます。

このように、3年間で自分なりに心の健康を意識しながら働いてきました。心に余裕がない時は良い保育もできず、また、自らが楽しんで保育をしなければ子ども達も楽しいとは感じません。これからも大好きな子ども達一人ひとりと真摯に向き合い、自分自身の心と体を労りながら、周囲の環境へ感謝の気持ちを忘れず、日々の保育に励んでいきたいと思っています。

日々の保育の中で

学校法人無憂樹学園
駅南幼稚園

山下 千沙

先日、運動会を終えました。子ども達が忍者に興味を持っていたことから、今年度の年中児のムーブメントは忍者に決定。1学期後半から導入を始めていきました。

ある日突然、真っ黒なボストが部屋に現れ、中には忍者の師匠からの手紙が。最初に見つけた子が「何か入ってたー!!」と目を丸くさせて、私や周りの友達に伝えにきました。隣のクラスのお友達も呼びに行つて、年中さんみんなで大騒ぎ。本当に純粋な子ども達の姿が見られました。



と、師匠も来てくれて、子ども達は驚きながらも一緒に踊つて楽しい時間を過ごせたようでした。私は保育者となり、3年目になります。年中の担任は初めてですし、まだまだ未熟な保育者ではありますが、今回の運動会のように、子ども達が興味を持っているものから保育を展開していくことを心掛けています。日々の生活の中で、子ども達の間でどのような世界が広がっているのか、遠くから見ても、その中に入れてもらつて見てみたい。そのうちにだんだんと分かつてきて、こちらも楽しくなつてきます。

子ども達の想像力、表現力はとてもおもしろく、思いのままにあそぶ子ども達の姿を見て「こういうことをやってみよう!」「こういうものを用意してみよう!」とひらめき、こちらの方がワクワクしてきます。

思うように子ども達に寄り添えなかったり、納得のいく保育ができなかったりすることもあります。幼稚園って楽しい!と感じてほしいという思いで、一日一日を過ごしています。これからも、子どもと保育者が一緒に「楽しい!」を探し、感じていくことができるよう、元気に頑張りたいです。

手つなぎ

学校法人吉田学園 万野幼稚園

万幼会会長 佐野 希利子

我が家の息子達は現在小学3年生と年長になります。

長男は実母からも義母からも「こんなに大変じゃなかった」と言われるほど手がかりました。赤ん坊の頃はおんぶしないうと寝なかつたし、夜泣きも毎晩のようにしました。

その長男にも2才10カ月の時次男が生まれましたが、その前日までおんぶして寝かしつけていました。つわりの時期は本当に辛かったのは今でも忘れません。2才の頃から公園などに出かけても私の手をしっかりと握つてなかなか私の元を離れられず、慣れてからようやく遊具等で遊びはじめたものです。また私や主人から叱られると必要以上に落ち込み、立ち直るのにひどく時間がかかりました。幼稚園に入園してからもその傾向は続きましたが、担任の先生をはじめとして園の先生方には温かく見守って頂きました。



次男は年少の頃バスに乗る時、泣いて嫌がることがあったり、少し歩いただけで「もう歩けない」と言つて私がおんぶして行ったり、年中の頃は毎朝「幼稚園に行くの嫌だなあ」と言いながら家を出たものでした。園に行つてしまえば楽しいらしく、帰りのバスを降りるとすぐに、その日に何をしたのか嬉しそうに話してくれるので園の様子がよく分かりました。年長になった今では嫌がることもないし、ちゃんと手をつないで歩いてくれます。

こんな息子たちですが、兄弟仲良く遊んでいる姿を見ると今までの子育ての苦労がふつ飛ぶようです。長男はまだ新しい事を挑戦するのに時間がかかりますが、それでも小さい頃の事を考えると彼なりにすくすく成長しました。

次男はありがたいことに寝かせるためにおんぶしたりした記憶はなく、一人で知らない間に眠つてくれました。3才くらいまで出来ないものも何でも自分ひとりでやりたがり、歩き始めた頃でさえ手をつなごうとすると振り払いました。

むしろ幼稚園に入園してからのほうが甘えてくるようになり、着替えなど自分でできていたものを私にやらせるようになっていきました。

たくらいです。幼稚園バスの停留所まで歩いて5分ほどなのですが、手をつないで通っています。

長男は3年間ほとんど嫌がる事なく通いましたが、園での様子は話しながら「誰と遊んだ?」「誰とも遊んでない」「何して遊んだ?」「何も遊んでない」という始末。幼稚園で何があつたのかさっぱりわかりませんでした。それでも帰り道では園で習った歌などを一緒に歌いながら家まで歩きました。

次男は年少の頃バスに乗る時、泣いて嫌がることがあったり、少し歩いただけで「もう歩けない」と言つて私がおんぶして行ったり、年中の頃は毎朝「幼稚園に行くの嫌だなあ」と言いながら家を出たものでした。園に行つてしまえば楽しいらしく、帰りのバスを降りるとすぐに、その日に何をしたのか嬉しそうに話してくれるので園の様子がよく分かりました。年長になった今では嫌がることもないし、ちゃんと手をつないで歩いてくれます。

こんな息子たちですが、兄弟仲良く遊んでいる姿を見ると今までの子育ての苦労がふつ飛ぶようです。長男はまだ新しい事を挑戦するのに時間がかかりますが、それでも小さい頃の事を考えると彼なりにすくすく成長しました。

6年間手をつないで歩いた、たった5分程度の幼稚園バスまでの送迎も、残りわずかになりました。成長を喜ぶ気持ちの中に少しさみしい気持ちの入り混じった「ふんわり」とした小さな手のひらの感触を大切にしたいと思います。

子どもの幸せ 何だろう

学校法人青山学園 すずき幼稚園

年少保護者 青山 魁宏

長女が生まれて3年9カ月、次女が生まれて半年が経ちました。長女は今、幼稚園の年少さんに毎日元気に通っています。

我が子が生まれた時、親であれば誰でもこう思うでしょう。「優しい子になって欲しい」「たくましく育つてほしい」「無事に元気に育つてほしい」「人の役に立つ人になってほしい」「幸せになって欲しい」と。そして、日々我が子と生活していく中で「幸せ」って何だろう」とふと疑問に思いました。目の前の事を真つすぐ見て、心から喜んで、心から泣いている子ども達。「このまっすぐな瞳が、どうか曇らないで欲しい」と願わずにはいられません。

世界幸福度ランキングで、日本は43位という上位にすぎりもしない順位に甘んじています。物質的にも技術的にも恵まれ、国民の公共意識もとても高く、安全で、世界中から「日本て、日本人て凄い」と讃えられているこの国に生まれてなお幸福を感じない人が多いのはなぜでしょうか。「忙しい」とは、心が亡くなると書きます。日本人は忙しすぎて、心を亡くしてしまっています。日本人は忙しいこと、努力していること、難題（かんなん）辛苦（しんく）に耐えること、私心を減らすこと等を美德とし、反対に楽をする事や娯楽を楽しむ姿を蔑んできました。そして日本独自の封建主義と資本主義が合体し、バブル期までに「NO」と言う人を許せない日本人」が顕著になってしまいました。頑張るのは素晴らしいけれど、疲弊することが本当に幸せでしょうか?



子ども達が未来に希望を持つて、まっすぐ大きくなるために、私達現役の子育て世代が何をすべきか考えた時、言葉を教えた、躾をしたりすると同時に、子ども達に「安心感」を教えることではないのでしょうか。日本は、どんどん住みやすい国になつていきます。公共マナーも昭和より格段に向上し、隣人に過干渉な人も減り、交通事故も年々減つて、凶悪犯罪も右肩下がりで、乳児死亡率も激減、貧困餓死も減っています。子どもを脅して命を削るほど頑張らないと生きていけない国で、全てがどんどん悪化していると嘘を伝えるよりも、「どんどん良くなるから安心してね」と、伝えるべきではないのでしょうか。

子ども達にはマザーテレサの言う通り「他人に愛を与えられないほど忙しく」なつてしまふ生き方より、お互いに優しくなれる環境を作ることのできる穏やかな生き方をして欲しいと思います。そして娘2人を含めた多くの子ども達が大人になつた頃、心を穏やかに、他人の目や自分の他人に対する目に心を乱されず、批判せず、批判されず、自分の意思でポジティブに頑張つて生きて行つて欲しいと思います。

色彩から学ぶ

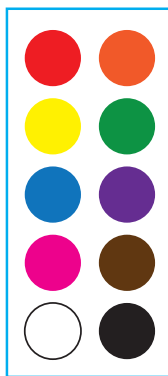
NPO法人 色彩心理診断士協会 COMPAS 代表理事

一級建築士 栗山 恵

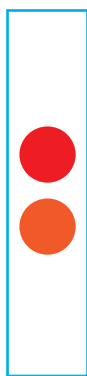


『笑顔が溢れる家族を増やすよ!』というプロジェクトを推進し始めて、今年で10年が経ちました。このプロジェクトは自分のライフワークの中で何をしていけば自分が自分の人生を楽しくワクワク生きられるか?と考えて命名したプロジェクトです。

この記念すべき10年目にいただいた今回の連載のお話し・・・私の得意分野である建築と色彩の魅力や、色彩から与えられる感覚や感情というものを、これまでに培ったノウハウを元にして、幼児教育や子育て支援に携わっておられる方々にお伝えできたら嬉しく思います。



Q1 10色の中から気になる色を1色選んでください。答()



Q2 赤とオレンジの2色のうち気になる色はどちらですか?答()

私達の心は受け取る色彩により変化し、また自分が身につける色により人に与える印象も変わります。何色を選んだかによって、その方の今の心の状態が現れたりもします。今号から毎回2色ずつその色の持つ心理的側面を解説致します。10色の

色が出そろった時、貴方の心の変化が選んだ色により変化している事を実感していただけたと思います。単純な色の選択ですので、必ずしもその色の意味が今の心の状態を全て表現しているとは言い切れませんが、まずは読んでいただいた方が、色で心の状態がある程度解る・・・ということをご理解いただければ幸いです。

とはいえ、その前にどうして私に色に興味を持ち始めたのかについてお話しします。

色彩に興味を持ち始めたのは、多分3、4歳の頃からだったと思います。まだ包装紙が貴重で祖母や母は、綺麗な包装紙で包まれた贈り物を頂くと紙だけ取っておいたものです。私が特に好きだった紙は、お医者さまで貰うトンプクの赤いペラペラ・テカテカした紙やチョコレートが包まれた紙で、アルミ箔、或は半透明で草花などのアールデコ調の模様が透かしのように型押しされたものでした。綺麗にしわを伸ばして宝箱にしまっておいたものです。

私は、祖父や父が宮大工という家庭で育ちましたので、歩けるようになると父に連れられ良く建築現場に行ったものです。半ば必然的に建築設計の道に進み32歳の時に自分の建築設計事務所を設立しました。普段あまり意識していない方も多いかもしれませんが、住まいは私達の人生を生きる「場」です。生れ落ちてから、死を迎えるまで、前の世代か

ら自分の世代へ、そしてその次の世代へと繋がっていく流れの中に存在し、私達をあらゆる危険や外敵から守つてくれ、食事と寝床を確保できる大切な場所です。そこで私達は子どもを守り育てます。住まいは命を繋げてくれるシェルターの役割を果たしてくれています。この住まいは個人の領域ですが、玄関から一歩外にでると個人の家の外壁も公共の場に繋がりが街へと繋がっていきます。そして家の中も外も、この世界は様々な色に溢れています。

色があるお蔭で私達の生活はより豊かで便利になっています。交通ルールやバス、地下鉄の路線図など、色を使うことでよりわかり易く見つけやすく区別や識別がしやすくなっていますし、ヨーロッパの街並みなどは屋根や壁の色を統一させることで地区全体に統一感や連帯感を持たせる効果があります。また生物や動物の世界ではオスのほうが華やかな体色を示している事が多く、これは子孫繁栄のためにより自分をアピールするためと言われています。他の感覚器官に比べ、視覚から入る情報は70%と高い値を示します。食事も見ただけで美しくバランスの良い配色で盛付けることで、子ども達に「嫌いなものでも食べてみたい!」という気持ちになってももらえるよう考えてくださっている事だと思います。

悩んでいるときは色彩のことは意識しないことが多いものです。だから

らこそ色彩を意識し自分で自分の気持ちのコントロールをすることも大切ですね。

今号は赤とオレンジの色解説です。

赤が引き出す感情は情熱や愛情、欲望や怒り、激情など幅広い意味に捉えられます。気持ちと身体を一体化する性質も持ちますので、赤を用いることでモチベーションを上げる、やる気にさせる、戦闘意欲、好奇心や気力、勇気を高めるなどの効果が挙げられます。血圧を上げる効果や体温を上げる効果があるので気持ちが高ぶっている時、プレッシャーを感じている時は逆効果になります。

オレンジは活発で陽気、外交的で開放的な意味を持ちます。赤同様、前向きに物事を捉える趣向があり一緒にいると楽しく、和やかな雰囲気作りが得意です。動き始める前、つまり準備段階の時期を表現している場合があり検討、岐路に立っている可能性もあります。前向きな自立期間ですので、変化や思い切った改善をしたいと感じている方、不転の決意で前に進もうとしている方も、オレンジを選ぶ確立が高くなります。

如何でしたか?選んだ色で複雑な人の心の全てがわかるわけではありませんが、上手に参考にしながら、自分自身や周りを知る一助にしたいだければ幸いです。



ナイスショット

静私幼だより

NO.175

2015.12.15

発行人／相田 芳久
編集人／陸光寺 明
広報委員会

発行所／静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私立学会館内
TEL:054(254)6820・FAX:(255)3694
印刷／(株)三創 レイアウト・イラスト／村松麗子

http://www.shizushyuu.or.jp/
E mail: office@shizushyuu.or.jp

ぐるぐる～♪えのぐ楽しいな!!



洗濯バサミを使って染め物をしたよ!



砂場の足湯 気持ちいいね!!



ジャック・オーランタン作るぞー



初めて5段の跳び箱に挑戦!



チームの仲間に

バトンを繋ぐぞ!



紙飛行機で楽しいね!



さつまいも掘ったよ!



赤くておいしそうなミニトマトだ!



バックに羽があるね



7っぺんまでのぼれたよ



【編集後記】

先日、広島県で行われた研修に参加した。本川小学校での日程を終え、ホテルへ向かう途中、長身のバックパッカー白人若者4人組が石碑に手を合せている姿があった。その後、すれ違う外国人の方々はみんな原爆ドームや資料館を見に来ている人たちだった。こんなにもたくさんの人が、異国に来て、その惨劇を見て感じ、平和の大切さを再確認し“世界が平和であることを願っているんだ”ということを実感した。

次の日、新幹線の中で、フランスの首都パリで起きた連続襲撃事件のニュースを知った。私は前日の出来事とのギャップに大変困惑し、その後は話し相手のいない新幹線の中で悶々としていた。ふっと本川小学校の資料館に飾られた書道の作品「米国の友達」を思い出した。ひとりぼっちの私は、その書の強さと爽やかな清々しさに少しだけ救われた気がした。

広報委員/追分幼稚園 田村都弥

(表紙写真／みやじま幼稚園)



このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。